

「川西市PTAあり方検討会」が始動

# PTA活動を考える

働く保護者が増える一方で活動が増えすぎたPTAあり方を変えなければ存続自体が難しくなっています。保護者と教員、地域が意見を交換して考える検討会が始まっています。問い合わせ 社会教育課 ☎ (740) 1215

## 保護者の負担となる 役員の業務

保護者と教職員で組織する「PTA」。その存在が大きく揺らいでいます。PTAの始まりは終戦直後にさかのぼります。今から70年以上前、民主化を進める流れの中で文部省(当時)が「父母と先生の会」の結成を推進し、全国の学校でPTAが結成されました。

60年代には学校給食の充実や子どもの教育環境の向上を後押しし、80年代には学校環境の健全化にも貢献。子どもたちを取り巻く環境は、PTAの活躍によって改善されてきました。保護者という立場から、学校がPTAに頼みやすかったこともあり、学校運営にとっても欠かせない存在となっていました。

しかし、中心となって活動してきた専業主婦が減り、核家族化が進むことで、これまで通りの活動に参加できる人が減少。また、社会環境が変わる中で、任意加入や個人情報、役員選出の問題など、課題の解決も求められています。

役員に選ばれると、限られた時間の中で、これまで受け継がれた業務をこなさざるを得ない。役員の肩のしっかかる負担により、PTA自体に入りたくないという声も一部から上がっています。

## 当事者が議論する場

PTAの改革が急がれる反面、PTA役員の任期は1年単位のため、検討や改善を継続して行うことが難しい状況

にあります。

そこで、市教育委員会が「PTAあり方検討会」を新たに発足。保護者や教員、地域コミュニティの代表、有識者など13人を招き、それぞれの立場から議論を交わしています。

座長を務める湊川短期大学教授の野崎洋司さんは、これからのPTAの在り方は教職員や地域の人を交えて、みんなで考えていかなければならないと話します。

「子どもたちのために、おとなである私たちに何ができるのかを考える検討会にしていきたいですね」

## 入退会などの課題を議論

これまでの検討会では、①任意加入の意思確認②個人情報の取り扱い③会費の徴収方法④役員の選出方法について、議論してきました。この内容を受け、各校PTAで今後検討されます。

## ①任意加入の意思確認

PTAは任意の団体であり、入退会は会員の意思で決められるべきです。しかし、意思確認や説明のないまま保

護者全員が会員となっているケースが多いことを問題として提起。意思確認をするための入会届案をPTA連合会から各校PTAに共有することで、各校で準備が進められることとなりました。

## ②個人情報の取り扱い

入会時、学校からPTAに氏名や住所などが提供される個人情報の扱いや、会費が同意のないまま学校徴収金と一緒に引き落とされることも、問題として挙げられました。個人情報の収集はPTAが行うことが望ましく、入会時に個人情報収集をすることも可能であることなどを確認。

また、学校徴収金と併せて徴収する場合は、入会届の提出時に同意を求めることも可能であることなどを確認しました。

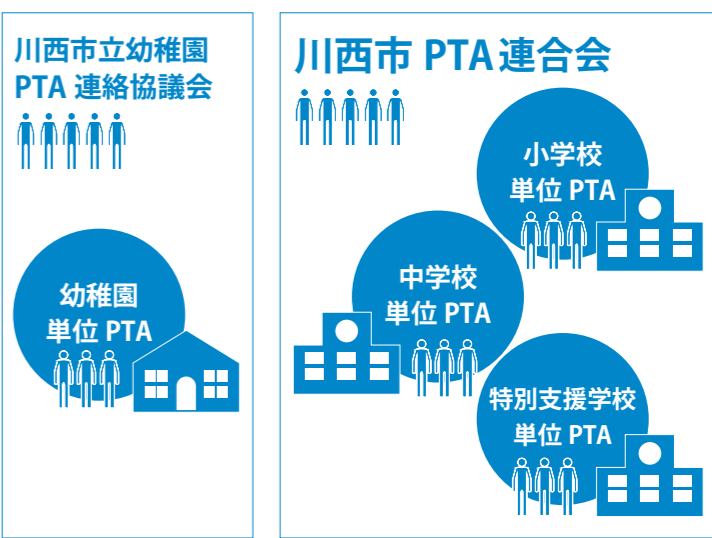
## ④役員の選出方法

役員の選出方法については、くじ引きや選出時に欠席にも関わらず決められる場合や、免除理由を会員の前で説明しなければならぬなど厳しいルールが課せられていることが挙げられました。ルールで厳しくしなければなり手

## 70年以上続く 保護者と教職員の任意団体

Parent(親)とTeacher(教職員)によるAssociation(社会教育関係団体)であり、任意団体であるPTA。「保護者と教職員が協力して、学校・家庭・社会における児童の健全な成長を図ること」などを目的とし、子どもたちの生活環境や教育環境の改善、福祉の増進、健康・安全などのために活動しています。「会員(保護者と教職員)相互の親睦を深め、教養を高めること」も目的の一つです。

現在、市内全ての小学校(16校)、中学校(7校)、特別支援学校(1校)にPTA(単位PTA)があり、役員が中心となって活動を行っています。そして、各小・中・特別支援学校の連合体である市PTA連合会(各幼稚園は市立幼稚園PTA連絡協議会)が設立され、情報交換やセミナーの開催、単位PTAからの要望の取りまとめを行っています。



がない状況など、活動内容にも起因する問題としながらも、事前に選出方法を明らかにし、法令遵守の上、役員を決めることなどを確認しました。

## 子どもたちに必要なことを整理

今後、最も重要な活動内容についての議論が始まります。野崎さんは、「変える」ではなく、「今やっていることを整理する」ことが大切と強調します。

## 子どもたちのために

## おとなに何ができるかを みんなで考える

「これまでの活動には必ず理由があります。そして、これまで役員として頑張ってきたPTA活動をつなげてくれた人、そして今も支えてくれている人のことを忘れてはいけません。検討会で活動の内容を一度棚卸して、子どもたちのために、そして保護者のために何が必要なのかを整理していったらと考えています。その内容を各PTAに提示し、判断する材料としてもらうことで、より良いPTAづくりを支えたいと思っています」



湊川短期大学 教授 野崎 洋司 さん

県立高校教員、県教育委員会指導主事などを経て2017年から現職。専門分野は社会教育・生涯学習、教育行政・制度。主に学校・家庭・地域の連携協力の在り方を研究

## 特集 保護者と学校の道しるべ

川西市PTAあり方検討会

# 負担感を

# ぬぐえるか

時代に合わせた変化が求められるPTA  
「PTAあり方検討会」の構成員に  
現在の活動に対する声を聞きました

## 保護者が抱く PTAのイメージ

PTAに所属する保護者と  
教職員。同じ会員でも、PTA  
に対する考え方も違います。  
3児の母である池内明子さん  
は、PTA役員として負担



清和台中学校 PTA 会長  
池内 明子さん  
パートで働く3児の母。幼稚園と小・中  
学校のPTA会長・副会長も経験を持つ

# Parent



PTA 連合会 会長  
古谷 茂政さん  
中学校のPTA会長を4年間務め、昨年PTA  
連合会会長に就任。3児の父

## 結果が見えにくく負担に感じる

を軽減するため、活動内容の  
見直しを重ねてきました。し  
かし、それだけではPTA離  
れは収まらないと話します。

「PTAに対する悪いイ  
メージが、保護者に広がり過  
ぎているように感じます。役  
員をしていると、『毎日学校  
にきているんでしょ?』『私  
にはできない』と言われるん  
です。実際は、多い月で3日  
程度。これまでも少しずつ  
負担は改善されてきました  
が、空気が変わらなければ変  
わりません」

役員になる保護者は、運営  
や会計など、初めて経験する  
ことも少なくありません。し  
かし、役員をしたからこそ分  
かることもあると池内さん。  
「保護者が学校と一緒に話

をできる場所が必要だと思  
います。一個人では、学校を知  
り、学校に意見することは難  
しいんです。学校は敷居の高  
い場所。学校行事や授業参観  
以外で、日常の学校生活を見  
られるのもPTAならではで  
す。子どもたちの学校での様  
子も見られて、先生とのつな  
がりもできます。自分の子ど  
もにも直結した活動なので、  
やりがいにつながっているん  
です」

## やりたいと思える 組織に変える

役員を受け継ぎながらも、  
このまま次の人に渡すことは  
したくないという池内さん。  
今後PTAに携わる人が続け  
られるように、変えられるこ

## 大きくなり過ぎた 愛情の結晶

PTA連合会会長を務める  
古谷茂政さんは、「PTAは  
子どもに向けた愛情の結晶。  
やってあげたい、協力したい  
という保護者の力で続いてき  
ました。その塊が大きくなり  
過ぎたんです」と話します。  
70年という歴史の中で、P  
TA活動は学校内外で期待さ  
れてきました。子どもを持つ  
若い世代の力は、学校にとっ  
ても地域にとっても頼れる存  
在。その期待に応えようと、

## 学校と一緒に話せる組織は必要

PTA役員は時間と労力を費  
やし、活動してきました。  
大きくなった活動が代々引  
き継がれる一方、働く保護者  
が増えています。これまでと  
同じ活動を続けることは困難  
です。

「PTAは結果が見えにく  
い活動だといわれています。  
頑張った活動を続けていても  
成果が見えない。そこから感  
じる疲労感と大き過ぎる負担  
が、PTAへの疑問につな  
がっているように感じます」  
PTA連合会としての活動  
も、これまで以上に各校PTA  
と学校、地域が互いに協力  
し合えるものになりたいと話

## 子どもを支える 両輪

保護者の負担をすぐそばで  
目にしてきた校長の小和田勉  
さんは、「PTAと学校が両  
輪となり、子どもたちの学校  
生活を支えてきました。しか  
し、時間がとられることが負  
担という保護者の声も聞こえ  
てきます。少しでも活動しや  
すい体制を整えることが必  
要」と話します。



緑台中学校 校長  
小和田 勉さん  
中学校教員を経て、市内の小・中学校  
で教頭・校長を歴任

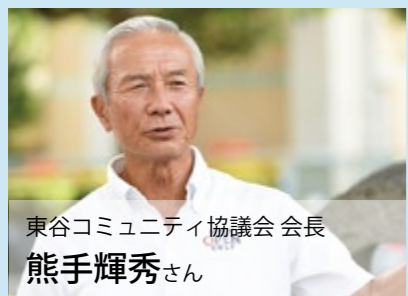
## 学校も変わるときを迎えている

教職員の勤務時間適正化が  
課題となり、働き方の見直し  
が求められている学校。何に  
労力と時間をかけるのかも大  
きな問題です。

「PTAも学校も変わらな  
ければいけない時期を迎えて  
います。共に走る両輪として、  
どうあるべきか一緒に考えな  
ければなりません」

## 地域との関わりから 考える

登下校の見守りや夏祭りといった催  
しなど、子どもたちの生活に関わる地  
域活動。PTAも大きく関わっています。  
コミュニティの立場から、PTAとの関  
わりについて聞きました。



東谷コミュニティ協議会 会長  
熊手輝秀さん

## 工夫を重ねられる関係づくり

PTAと地域との関わりは、場所によっ  
てさまざま。お互いの相談ができるか  
どうか大きく関わってきます。それ  
は、自分たちで築くものなんです。

大切なのは、核となるコミュニティ。  
対話の中で、会議の日程の調整や業務  
の分担など、小さな工夫を重ねること  
が必要です。足りないところをお互い  
に補いながら、地域の宝である子ども  
たちを守る地域づくりを共に進めて  
いきたいですね。



緑台・陽明コミュニティ協議会 会長  
大村衣子さん

## 地域住民もPTAの一員としては

学校と地域とのパイプは不可欠。忙  
しい保護者に代わって、地域住民が  
PTAに入ることも一つの方法として考  
えられるのではないのでしょうか。地域  
には、子どもたちに手を差し伸べてき  
た人がたくさんいるんですよ。

子育ては他の何物にも代え難いもの。  
メリットもデメリットもないはずで  
す。PTA活動も、子どものためにという目  
的を忘れずに見直していけたらと思  
います。

# Teacher

# 学校も地域も 共に変わる

校長の立場からPTA改革に挑んだ福本靖さん  
保護者が役員に立候補するほどの組織に  
変わった理由を聞きました

## 活動の見直しも 同時に進める

「保護者がやりたいと思う組織にならなければ、今後PTAそのものが立ち行かなくなりません。本来の目的に沿った役割を明確にすることが必要です」

市PTAあり方検討会で副座長を務める福本靖さんは、PTAの改革を保護者と共に行ってきた中学校の校長です。保護者と協力して活動を見直すことで、役員全員が立候補で決まる「保護者がやりたい」組織に変えてきました。「PTAの3点セットとい

## 三方で歩み寄る 落としどころ

活動の根本的な見直しは、各校のPTAだけでは難しいと福本さん。「校長の協力、そして地

域の協力が欠かせません。しかし、人手が足りないのはどこも同じ。必ず利害が対立する場面が出てきます。その時に、PTAと学校、地域の三方がお互いに歩み寄って、落としどころをつくれるかどうか踏ん張りどころです」

## 子どもに直結する 活動がやりがい

活動を軽くするだけでなく、保護者がやりがいを感じられる活動に学校としてかじを切った福本さん。PTAの役員が校長や教頭と直接話し、学校運営を変えられる仕組みを取り入れられました。子どもの学校生活に直結する活動をPTAでできることが、保護者の役員立候補につながっていると話します。

「教師の働き方改革が進む中で、学校も変わらなければいけない時期にきています。通知表の所見欄に書くコメントなど、学校業務の負担になつている部分もPTAを通して理解を得て、軽減させてもらっています。その代わり、学校も子どものためにできることは校則も変えていく姿勢です。だから、PTAをやり

## 三方が歩み寄って 落としどころをつくるために 踏ん張れるかどうか

たいと言ってくれる保護者がいるんです」

70年以上続いてきたPTAの存在意義が問われる時代になっていきます。努力と時間をかけてでも、今変えるしかない福本さん。

「今年から幼児教育の無償化が始まり、働く保護者はますます増えてきます。保護者自身が『子どものために何をしてくれるのか』ではなく、『何ができるのか』と考えられるようになればいいですね」

神戸市立桃山台中学校 校長  
福本 靖さん

PTA改革やICT教育など、斬新な取り組みから注目を集める。元PTA会長の今関明子さんと『PTAのトリセツ—保護者と校長の奮闘記』を書き上げ、全国で講演会なども行う

PTAの組織や運営について意見を聞き、調査・研究を行う検討会。保護者を含め、各団体を代表する13人の構成員が議論を進めます。令和元年度のスケジュールは左記の通り。傍聴希望者は、開始30分前から当日会場へ（先着順）。



## 意見を交わしながら 新しい答えを当事者でつくる

保護者と学校、地域と一緒に、子どもに対する理解を深めるイベント。保護者だけでなく、誰でも参加可能です。今年度は、活動報告や表彰の他、新たに座談会を予定。保護者、教員、地域、そして市の代表者が今のPTAのあり方を語ります。広報誌令和2年1月号にも掲載予定です。

Parent Teacher Community Association

## PTCAフォーラム

主催 市PTA連合会

日時 令和2年1月18日(土)  
午後0時半—4時

場所 キセラホール

市ホームページ



第5回以降の予定は未定です  
詳しくは市ホームページなどに掲載します  
問い合わせ 社会教育課 ☎(740)1215

## 川西市PTAあり方検討会

## 今後の開催スケジュール

各団体を代表する13人の構成員が議論  
傍聴希望者は当日会場で受け付け

3回 日時 11月17日(日) 午前10時—正午  
場所 市役所7階会議室

4回 日時 令和2年2月1日(土) 午後2時—4時  
場所 市役所2階会議室

第5回以降の予定は未定です  
詳しくは市ホームページなどに掲載します  
問い合わせ 社会教育課 ☎(740)1215



川西市長  
越田 謙治郎

検討会では構成員の皆さんによって、しっかりと議論が進められています。私もその進む先を見守っていくつもりです。検討会は傍聴もできるのです。ぜひ皆さんも一緒に考えていただければと思います。

私はこれまで、PTA活動に関する子育て世代の思いにふれてきました。「役員が決まらないと帰れない」「夜勤明けに活動をしなければならぬ」など、多くの人がしんどさを感じていたので。子どもたちに人生最高のスタートを切ってもらうためには、親も笑顔でなければいけない。そのためにも、PTAの負担感をなんとかしたいと「川西市PTAあり方検討会」を立ち上げました。

検討会を始めるに当たり、PTA活動から保護者を解放してくれるという期待と、PTAをなくそうとしているという不安、そして市に方向性を示してほしいという要望の声がありました。しかし、私の思いはそのいずれでもありません。子どもたちにどう関わるのか、当事者で考えるしかないのです。PTAの役員は原則1年交代のため、変えたくても自分たちだけで変え

ることは難しい。だからこそ、みんなで一緒に考える場をつくりたかったのです。

前向きに活動している人や、やりがいを感じている人がみんなに応援される組織。一方で、できない人の意思や事情が尊重される組織であるべきです。

5月には、朝日新聞東京本社で行われたPTAフォーラムにパネリストとして出席してきました。全国で注目される課題に、大きな一歩を踏み出したことを実感しながらも、前に進める責任を感じています。

検討会では構成員の皆さんによって、しっかりと議論が進められています。私もその進む先を見守っていくつもりです。検討会は傍聴もできるのです。ぜひ皆さんも一緒に考えていただければと思います。